



成果指標				
成果指標	決算額÷予算額×100			
指標設定の考え方	予算額を100%とし、決算額の予算額に対する率により、当該事業のコスト縮減効果を図る。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目 標	100	100	0	0
実 績	80.4	78	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	林道を維持管理していく上で、林業の低迷から木材の搬出等が激減していることから、最低限の作業を実施している。また、林道には構造物が少ないことから、草刈及び崩土取除きが主な作業となり、林道延長も膨大であり、事業費が増える傾向にある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	定期的に林道のパトロールを行うなど、的確な補修、修繕工事を計画し路線の維持管理に努める必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題